

第42号

早稲田大学創造理工学部

環境資源工学会会報

平成19年4月1日発行

## 新しい環境・資源の時代に向けて

環境資源工学会 会長  
内田 悦生

わが国で最初に理工学部という名称を名乗った早稲田大学理工学部は2007年4月1日をもって基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部の3学部  
に再編されました。大学院理工学研究科も同時に再編され、基幹理工学研究科、創造理工学研究科、先進理工学研究科の3研究科となりました。新学部の定員は、それぞれ500~600名でほぼ同じ規模に再編され、総定員は旧理工学部の定員1670名と変わっていません。1学部で1670名の定員というのはあまりにも大きく、早稲田大学の中でも飛び抜けて規模の大きな学部でした。勿論大きな定員を有することによるスケールメリットもありましたが、学部運営における意思決定に時間がかかることから、時代の変化に迅速に対応していくためには組織を小さくし、それぞれの機動性を高める必要があるとの判断に基づき、このような学部・研究科の再編に至りました。ただし、3学部・3研究科は同じ理工学術院に属しており、完全に独立した組織になったわけではありません。スケールメリットを生かすべく、設備、基礎教育、事務は共有され、設備・人的資源の有効利用が図られています。この再編により、学科の新設・再編も行われました。旧理工学部は13学科で構成されていましたが、新理工系3学部では計17学科に増加しました。新学科として応用数学科、表現工学科、電子光システム学科、生命医科学科の4学科が設置され、旧機械工学科は、機械科学・航空学科と総合機械工学科とに分割・再編されました。他方、

旧物質開発工学科は時代背景に鑑み発展的に解消されることになりました。また、3学科で名称変更が実施され、数理科学科は元の数学科に、コンピュータ・ネットワーク工学科は情報理工学科、化学科は化学・生命化学科となりました。

この再編によりわが環境資源工学科は、創造理工学部  
に属することになりました。創造理工学部は、建築学科、総合機械工学科、経営システム工学科、社会環境工学科、環境資源工学科の5学科から構成されており、「多様な人間の価値に基づく豊かさの創造」をその理念として掲げ、「ヒューマン」、「生活」、「環境」をキーワードとした社会と密接な関係を有する学科から構成されています。この再編により環境資源工学科はその規模が若干大きくなりました。先ほど述べたようにこの再編に伴い旧物質開発工学科は発展的に解消されましたが、旧物質開発工学科の教員である不破章雄先生が環境資源工学科に加わることになり、環境資源工学科の専任教員数は、10名から11名へと増加しました。それに伴い学部の入学定員も60名から65名へと5名増加しました。不破先生は金属精錬プロセスの専門家であり、環境資源工学科、大学院地球・環境資源理工学専攻において「素材プロセス工学研究室」を立ち上げることになりました。今現在は、まだ物質開発工学科には2年生以上の学生が残っている状況ですので、今後3年をかけて徐々に環境資源工学科および地球・環境資源理工学専攻における教育・研究に移行するこ

とになっています。

このように早稲田大学理工系は大きな節目を迎えましたが、環境資源工学科も今大きな変化を迎えつつあります。昨年の3月に佐々木弘先生が定年を迎えましたが、引き続きこの3月に茂呂端生先生が定年を迎えました。今年度の環境資源工学会報では茂呂先生の特集が組まれておりますので、ここでは詳しくは述べませんが、1997年4月以来10年間、資源循環工学分野の教員として、特に、スラリー輸送、資源の高度利用と有効利用、廃棄物処理とリサイクリング等に関する教育・研究活動にご尽力いただきました。数年前に3度ほど入院されましたが、その後回復され、この3月に無事お元気な姿で定年を迎えられたことは大変喜ばしいことです。茂呂先生は大変優しい先生で、怒っている姿など全く見た事がありません。何年か前の謝恩会の時、学生からの感謝の気持ちとしてプレゼントされたチャイナ服を着た茂呂先生の姿が今でも忘れられません。これは学生の茂呂先生に対する愛情表現なのかも知れません。いつまでもお元気でいらっしやることを環境資源工学科教員一同願っております。

茂呂先生の代わりに今まで環境資源工学科の助手を務めていた所千晴さんが、資源循環工学分野の専任講師に昇格しました。理工学部ではまだ少ない女性教員であり、環境資源工学科では初めての女性教員です。最近では、環境資源工学科の学生の1割強が女子学生であることから、11名の専任教員に女性教員が1名いることはバランスが取れて良いのではないのでしょうか。体は小さいですが、バイタリティーに富み、明るい性格ですので、環境資源工学科全体も明るくなることは間違いないと思います。

環境資源工学科では、佐々木先生を皮切りにこの10年間で7名の教員が定年を迎えることになり

ます。半分を超える教員が交代するわけですから、わが学科においては大変な事態といえます。実はこのような教員の短期間における交代は偶然ではなく、意図的に仕組んだものです。1980年代の後半から私たちの先輩教員が次々と定年を迎え、名古屋先生を先頭とする若手教員が採用されました。しかしながら、当時における資源工学科の展望は必ずしも明確ではなく、これ以上若手教員を採用すると資源工学科のその後の舵取りが困難になることが予想されました。それ故、それ以降は意図的に50～60歳ぐらいの教員を採用するようにし、その十数年後に再度将来計画が立てられるようにとの思いで、このような人事を実施しました。今まさにその時期にさしかかったわけです。今後の環境資源工学科の進むべき道は今なお明確であるとは言えませんが、「資源問題」、「環境問題」といった人類に課せられた今世紀最大の重要課題に取り組む環境資源工学科にとって今後は追い風が吹くものと思われれます。環境問題はさることながら、最近では巨大な人口を抱える中国やインド等の急速な発展により、国際的な資源の争奪戦が始まり、金属・エネルギー資源の価格が急騰しています。資源循環システムの構築も喫緊の重要課題ではありますが、更なる金属資源の供給なくしては、世界における豊かな社会の構築の実現は不可能であり、今後ますます金属・エネルギー資源の重要性が増すことと思われれます。金属・エネルギー資源を持たない日本であるからこそ、今後活発に海外に進出し、自らの手で資源を探索・開発し、将来的に安定した資源の供給を確保する必要性があります。このようなことから資源専門家を育成する当学科の重要性が再認識される時代がもう既に来ているのではないのでしょうか。更なる環境資源工学科の発展のために皆様のお知恵を拝借できればと考える次第です。



## 退職雑感「幸運に恵まれた十年」

茂呂 端生

早いもので早稲田にお世話になって丁度十年になりました。平成九年四月の着任で、その年に学部四年生として佐々木研に配属された西井さん（現・所助手）がこの四月から専任講師として資源循環工学分野の一翼を担うことになり、ある種感慨を覚える次第です。前任の原田先生から声をかけていただき、いろいろ不安もありましたが若い人たちと一緒に仕事ができる魅力もありお引き受けしました。正確に数えてはおりませんがこの分野は比較の人気があり、延べ5、60人の諸君とお付き合いしたことになろうかと思えます。よき同僚・よき学生に恵まれての十年間は、他の仕事では得られない幸せな体験であったと感謝しています。

ただ、四年前から体調を崩し十分な仕事ができず、学生諸君に迷惑をかけることが多く心苦しく思っております。結果、「玉砕」するほどのタマではないと見切って「瓦全」を期したことになりましたが、ご寛容いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

いま、男性の平均寿命が八十歳に満たないことは、少なくともその前後には不具合なところが出てきて致命傷になることを意味しています。私自身については、血管系が弱く視力も衰えてきていますので、「読書」の楽しみは、少々怪しくなっていますので、耳の確かなうちは「音楽」を楽しみ、足腰の達者なうちに「旅」に出たいと考えています。

昭和11年生まれで、いわゆる、焼跡・闇市世代の最後に当たりますので、三月十日の東京大空襲も対岸から見ておりましたし、食料難の少年期を過

ごしてきましたので、銀メッキのスプーンをくわえて生まれてきたような今の若者たちと波長が合わないのは当然ですが、年寄りには年寄りの役割もあろうかと、憎まれ口を叩いてその責を果たしています。その歳にならないと本当に分かることは沢山あります。限られた生命をもつ存在であることを自覚するとき、また、そこに留まることの許されないことを知るとき、時間より貴重なものはなくなります。河童の子と違い、時代や環境を選んで生まれてこられる訳にはいかず、与えられた環境のもとでその時々をひたすらに生き抜いていくことより他に途はないと思い定められる様になれば幸せかなと思っております。

我々の世代は物質的な豊かさを求めるのに余り疑いを抱かずにすんだ世代であり、豊かさの中で目的を見失っている現在の若者を批判しても仕方がない話ですが、なにかメッセージをというところで、かつての多感な時期に読んだヘルマンヘッセ（当時の人気作家）の小説から記憶に残っている一節を紹介しておきます。動乱のルネッサンス期に生きたフィレンツェの僭主ロレンツォドメジチの墓碑銘の引用です。手許に本がないので多少怪しげですが、以下のようなものです。

「あわれ麗しき生命の春、過ぎゆけば儂しや、楽しみは愉しむこそよけれ、明日しらぬ人の命なりせば」、また、釈尊入滅の折りの言葉として、「この世界は美しいものだし、人間の命は甘美なものだ」との述懐が残されております。

おわりに、皆様のご多幸とご健勝を願い、別れのご挨拶とします。

## 茂呂研究室での5年間

長田 昌之  
(2006年度卒業)

茂呂先生、御退職おめでとうございます。

研究室に仮配属で顔を出したのが今から5年前です。先生とはかれこれ5年ほどのお付き合いになりますが、10年間続いた茂呂研究室の約半分を見てこれたのかなとやや感慨深いものがあります。コーヒーを飲みながらテーブルを囲んでお話ししたことが今でも鮮明に記憶に残っています。戦争の話から始まり、旅、音楽、音響機器、はたまた考古学までとその幅広い知識には驚きの連続でした。

先生がよく言葉にする「自由と規律」をポジティブに受けとめ、自由闊達な研究室生活をしてまいりましたが、道を外しそうになったときは厳しいお叱りを受けました。普段から学生に対してあれこれ言わない先生だけに、その一言一言が心に突き刺さったことを印象深く憶えています。

3年前、脳梗塞という大病を患われ研究室全体に動揺が走りましたが、驚異的な回復力や先生ご自身の明るい振る舞いに、病院にお見舞いに伺った我々全員が虚をつかれたことがありました。「血液の流れを計算したら、ストークス域だったからねえ。まあ、だいじょうぶじゃないかな」今でもあの名ゼリフは忘れることができません。今後もその前向きさで病気を往なしていき、いつまでもお元気でこれからの人生を楽しんでいかれることを望んでおります。

末筆ではありますが、長きにわたるご指導ありがとうございました。住宅メーカーという、本学科とそれほど密接な繋がりが無い世界に進んでいきますが、先生から受けた様々な教訓を今後の人生に活かし、精進していきたいと思っております。

## 茂呂先生との思い出

佐倉 悠香  
(2003年度卒業)

茂呂先生、この度はご退職おめでとうございます。

4年前に先生の研究室に配属となり、1年間レオメーターの研究をさせていただきました。

機械音痴で、器具の使い方もいまいおぼつかない私を、茂呂先生はそっと見守っていただきました。時々落花生とコーヒーを持って、実験室にいる私に「調子はどうですか。」と声をかけてくださったのを今でもよく覚えております。茂呂研究室の卒業生が口をそろえて言うのが「自由闊達な研究室であった」という言葉です。茂呂先生は、私たち生徒の考え方を尊重し、行き詰ったときにアドバイスして下さる、そんな先生でした。

私が学生だったころ、先生は一度大病で入院をされたことがありましたが、そんなお体の中、一人一人生徒の論文について、丁寧にアドバイスを下さったお姿を今でも思い出します。

卒業が決まった頃に、研究室の生徒で先生のお宅にお邪魔したことが一度ありました。先生は、袴姿で迎えてくださり、先生ご自身で作られたス

ピーカーで、先生のお好きなクラシックを聴かせていただきました。研究室での先生とはまた違うお姿でしたが、先生らしいそのスタイルがとても素敵だと感じた記憶がございます。

私は昨年末に転職いたしました。前職とまた違う職種のため、一からのスタートで身の引き締まる思いがいたします。しかしどの職種でも変わらないのは、現状を改善するための仮説と、それを実行してみること、そして実行後に結果がどうであったか振り返ってみることです。これはまさに実験と同じプロセスではないかと私自身はいつも感じております。研究室で学んだことが、直接ではなくても、こうやって間接的に生きてくるのだなど、失敗も重ねながら感じております。

ご退職されてから、先生は趣味やお好きなことにじっくり向き合われるのでしょうか。どうかお体にはお気をつけて、いつまでもお元気な茂呂先生でいてください。そして折に触れて、先生にまた「書」のプレゼントをさせていただけたらと思っております。

## 茂呂先生、お世話になりました!

清水 伴紀  
(2000年度卒業)

先生もついに退職を迎えられるとのこと、おめでとうございます!

先生が早稲田に来られてから、早いものでちょうど10年になりますね。あまり良い学生とはいえなかった我々に対して、卒業の直前までご指導下さいまして、本当にお疲れ様でした。学部の際は佐々木先生にお世話になっていましたが、修士の希望者が大変多く、一人は浪人せざるを得ない状況の中、先生に助けていただきまして大変助かりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。私が、先生の元にお世話になったときには、良くも悪くも非常に個性的な先輩達に囲まれ、色々と勉強になり、私にとっては幸せな時間だったと思います。

一度、先生のご自宅に研究室全員を招いて下さ

りましたが、奥様の手料理が大変美味しかったことが思い出されます。あのときは大変ご馳走になりました。ご自宅にはかなり大きなスピーカーが備えられていて、クラシック音楽を流して下さいましたが、音楽の素養が無い私には曲の良さがわかりませんでした。でも、気持ちよさそうに聴いていた先生を覚えています。

今後はごゆっくりとご静養なさって、第三のご人生を楽しんで下さい。

私の方は、第一に「弁理士」の資格取得、そして第二に新しい家族を得ることが私の当面の目標です。先生とお会いするときには、新しい家族を紹介できるように頑張ります。

最後になりますが、先生、この度はご退職おめでとうございます。

## 茂呂研究室での思い出

杉田 謙介  
(2000年度卒業)

どうもご無沙汰しております。1998年度（4年）～2000（修士2年）までの御指導いただきました杉田謙介です。

10年間もの長い間のお勤めお疲れ様でした。私は、茂呂先生の資源研でのコネクションを頼り、資源研（現、産総研）に3年間行かせて頂きました。

卒業論文、修士論文に関する先生の御指導はもちろんですが、資源研で稲葉先生、松野先生に師事を受けたこと、産学官の様々な研究者とディス

カッションできたこと、複数回の国際学会での発表等、資源研での経験が現在の私を形成していると言っても過言ではありません。不勉強な私を後押しして頂いたことに感謝してもしきれません。現在は、金融業界に身をおく私ですが、茂呂研究室での思い出が昨日のことにように思い出されます。退職されても引き続き御指導お願いします。

末筆になりましたが、お体には留意なさってください。今までありがとうございました。



## 大学院地球・環境資源工学専門分野 2006年度修士論文題目

### 資源科学部門

- 【内田研究室】** 上野晃世 クメール遺跡における建材の時代変化と劣化に関する研究  
齋藤兼一 インドネシア、中部ジャワ遺跡の石材に関する研究
- 【山崎研究室】** 杉野翔吾 バーミキュライト及びモンモリロナイトを用いた環境調和型無機塗料の作製と評価  
鈴木充子 未利用シリカ系資源原料からの含水カルシウムケイ酸塩素材の合成と性質  
大澤 創 ハイドロキシアパタイトナノ粒子担持による生理活性物質の活性変化  
若狭寛幸 Mg-Al系層状複水酸化物の組成及び結晶子サイズ効果による有害イオンの吸着・固定挙動
- 【円城寺研究室】** 石田正和 石炭灰を原料とした軽量コンクリートの作製  
遠藤雅志 水冷スラグの物性評価と品質管理  
内藤圭祐 一般廃棄物を構成する元素の起源と処理過程における挙動  
中川津果砂 山梨県金山鉱床周辺に産する石英岩の成因
- 【小川研究室】** 神原久美子 ナノポーラスシリカ真球状粒子の合成と集積  
水島真哉 層状アルカリシリケートと希土類イオンのイオン交換生成物の発光特性

### 開発環境工学部門

- 【在原研究室】** 飯野 敦 ストリームライン法による天然フラクチャー型油層シミュレーションモデルの構築と水攻法管理への応用
- 【森田研究室】** 岸本綾子 分解速度論に基づくメタンハイドレート貯留層の分解挙動解析  
陳内康生 貯留層における鋼管の滑り解析  
渡邊 明 小型3軸穿孔岩石強度試験器の開発

## 資源循環工学部門

- 【大和田研究室】** 原 隆人      ピンミル・ボールミルによる廃石膏ボードの石膏・紙成分の高度分離および選択粉碎機構の解明
- 前田英律      5000系アルミドロス中の金属アルミ濃縮を目的とした物理選別フローの構築
- 松浦太樹      日本・韓国産石灰石から得られた生石灰の水和・炭酸化特性の評価
- 中宮優子      電気パルス粉碎における鉱物粒分散人工セメント試料の単体分離性に及ぼす構成鉱物の電気的特性の影響
- 森川隆彦      セメント複合材料の構成成分の強度寸法効果を考慮した単体分離モデルの提案
- 
- 【茂呂研究室】** 長田昌之      加熱変形特性を利用したプラスチックフィルムのふるい分けによる形状分離
- 木村文彦      高炉スラグ及びフライアッシュを利用したバリア材の性能評価
- 重森洋介      企業誘致施策による社会影響定量化手法に関する研究
- 南波泰昌      消費行動起因CO2排出量の算出
- 森川大輔      廃プリント基板中の有価金属回収のための選択粉碎に関する研究

## 環境安全工学部門

- 【名古屋研究室】** 入江寛文      溶接作業現場における溶接ヒュームの抑制に関する研究
- 加藤佑一      活性炭クロスを用いた化学物質抑制のための現場モデルへの適応に関する研究
- 宮下友里      大気中VOCsの湿性沈着機構の解明に関する基礎的研究
- 宮北大嗣      ポリ塩化ビフェニル（PCB）の作業環境測定法の見直しと新測定法の提案
- 山中恵理      TiO<sub>2</sub>粒状光触媒の作製とその性能評価に関する研究
- 渡邊雄亮      各種金属酸化物触媒を用いた代替フロンの分解に関する研究

## 地質学部門

- 【平野研究室】** 栗原 慧 冷湧水域における軟体動物群集と炭酸塩岩の分布様式：北海道中央部三笠地域の白亜系アルビアン階における化学合成化石群集
- 清家一馬 中新統三浦層群三崎層より産出した新種生痕化石Manutubus hiranoiの記載および形成生物の復元と古環境
- 村上瑞季 Vertebrate fossils from Cretaceous and Neogene of Teshio area, Hokkaido, Northeast Japan
- Some Delphinoids (Mammalia: Cetacea) from the Upper Miocene through the Upper Pliocene of Hokkaido, Northeast Japan: Their phylogenetic relationships among Odontoceti
- 村上 亮 北海道北西部朱鞠内－羽幌地域の上部白亜系層序
- 【小笠原研究室】** 竹内 陽 Archean contact metamorphism of low-grade greenstones in Wyoming Province
- 清水連太郎 Microdiamond and tourmaline as key materials for evolution of deeply subducted crust -New insights for UHP gneisses from the Kokchetav Massif, Kazakhstan
- 【高木研究室】** 高橋和裕 花崗岩中の断層破碎に伴うダメージゾーンの幅の評価
- 三輪成徳 領家花崗岩中に見られるマイクロクラックの三次元方位分布と古応力場の復元
- 【円城寺研究室】** 石田正和 石炭灰を原料とした軽量コンクリートの作製
- 遠藤雅志 水冷スラグの物性評価と品質管理
- 内藤圭祐 一般廃棄物を構成する元素の起源と処理過程における挙動
- 中川津果砂 山梨県金山鉱床周辺に産する石英岩の成因
- 【小川研究室】** 神原久美子 ナノポーラスシリカ真球状粒子の合成と集積
- 水島真哉 層状アルカリシリケートと希土類イオンのイオン交換と生成物の発光特性

## 環境資源工学科の動き

### 1. 日誌

- 4月1日 学部入学式（全学部）  
4月2日 大学院入学式  
4月3日 理工学部始業式  
環境資源工学科入学者 71名 内女子14名（一般入試38、創生入試3、外国人1、学院6、本庄3、早実5、早高2、指定校推薦13）  
4月12日 前期授業開始  
4月22日 環境資源工学会，大隅ガーデンハウスで行われる  
5月18日 大学院修士課程推薦入学試験（面接）（48名合格、内女子10名）  
6月16, 17日 理工スポーツ大会  
7月6日 環境資源工学会奨学金及び吉澤奨学金授与式  
第13回環境資源工学会奨学金：学部4年 遠藤優、前島幸司  
第17回吉澤奨学金：修士1年 関口林彦  
7月22日 修士一般入学試験（9名合格、内女子0）  
7月28日 前学期授業終了  
7月29, 30日 オープンキャンパス説明会  
9月10日 外国人学生入学試験（面接）3名合格  
10月31日～11月6日 理工展、11月4日ペアレンツデイ  
11月18日 推薦高校入試面接 18人合格  
11月25日 現場実習報告会  
12月22日 2005年度研究室配属  
12月23日 冬季休暇開始  
1月6日 授業開始  
1月31日 卒業論文提出締め切り

- 2月3日 修士論文提出締め切り  
2月6, 7日 卒業論文発表  
2月9, 10日 修士論文発表  
2月16日 創造理工学部一般入学試験  
3月25日 卒業式、学位授与式

### 2. 就職・進路

学部卒業生：59人  
大学院修士修了者：38人

#### 学部卒業生

##### 石油・ガス・地質

国際石油開発帝石ホールディング 2  
新日本石油開発 1、化学・食品・製薬  
札幌ビール 1

##### 機械

オーイズミ 1、ヤマハ発動機 1、  
トヨタ自動車 1

##### システム

デジタルアドバタイジングコンソーシアム 1  
日揮 1

##### 電気・電力

東京電力 1、日本電気 1

##### 環境・空調

ダイキン工業 1

##### サービス・販売

キャノンマーケティングジャパン 1

##### 商社・銀行

三井物産 1

## 大学院進学

早稲田大学院修士進学 33、  
他大学院進学 5、外国大学院留学 1  
その他（資格試験受験中、未定）6  
配属後留年 2

## 修士卒業生

### 鉱業

三井金属鉱業 1

### 石油・ガス・地質

国際石油開発帝石 2、  
石油天然ガス金属鉱物資源機構 1、  
石油資源 1、出光興産 1、三井液化ガス 1

### 化学・食品・製薬

中外製薬 1、キリンビール 1

### 運輸・交通

東海旅客鉄道 1、全日本航空 3

### 建設・住宅

ミサワホーム 1

### 機械

小松製作所 1、YTTAP 1、  
アーステクニカ 1、東陶機器 1、  
大日本印刷 1、シチズン電子 1、  
新キャタピラ三菱 1

### 情報

日本IBM 1、  
富士通コンピュータテクノロジーズ 1、  
富士ゼロックス 1、  
NTTコミュニケーション 1、  
アクセントアテクノロジーソリューションズ 1

### 電気・電力

東京電力 2

### 環境・空調

リサイクルワン 1、フジテックス 1

### サービス・販売・その他

東映アニメーション 1

## 商社・総合研究所

野村総研 1、三井物産 1、三菱商事 1

## 銀行・証券

野村證券 1

## 大学院進学

大学院研究科博士進学 4  
その他（資格試験受験中、未定）1

## 3. 博士（工学）学位取得者

島本辰夫（工学）：半径方向の貯留層分布を有する坑井モデルの近似的解析解法とその応用 (Approximate analytical solutions of well testing in reservoir with radial property variation and their applications)

井出祐介（工学）：有機シリル化剤との反応による層状物質の機能設計 (Design of functions of layered materials by the reaction with silylating reagent)

ウスマン（工学）：熱水攻法による重質油回収評価のためのストリームライン法シミュレータの構築 (Development of streamline-based simulators for evaluation of heavy oil recovery by hot waterflooding)

志村直紀（工学）：均一溶液からのナノポーラスシリカの形態合成 (Morphosyntheses of nanoporous silicas from homogeneous solutions)

曾田祐介（理学）：九州東部佐志生断層沿いの蛇紋岩の変形過程とその地体構造的位位置づけ (Deformation process and geotectonic correlation of the serpentinite along the Sashu fault, eastern Kyusyu)

中出正人（工学）：金属酸化物・シリコンハイブリッドの創製 (Synthesis of metal oxide/silicone hybrids)

#### 4. 専任教職員の構成

2007年度の教職員は以下のようになります。

教授	在原典男	石油工学研究室
	内田悦生	資源地球化学研究室
	大和田秀二	資源循環工学研究室
	香村一夫	地圏環境学研究室
	名古屋俊士	環境安全工学研究室
	毎熊輝記	防災探査研究室
	森田信男	岩盤・石油生産工学研究室
	山崎淳司	応用鉱物学研究室
	不破章雄	素材工学プロセス研究室
	助教	大河内博

#### 専任講師

所千晴 資源循環工学研究室

助手	藤永公一郎	資源地球化学研究室
	本郷照久	応用鉱物学研究室
	大槻晶	資源循環工学研究室
	中村憲司	環境安全工学研究室

#### 実験室職員

鈴木和男  
田中潤

#### 連絡事務室職員

下津弘子

#### 学科主任および学年担当

学科主任	内田悦生
M1/M2担任	在原典男
4年担任	森田信男
3年担任	名古屋俊士
2年担任	香村一夫
1年担任	大河内博

#### 5. 現場実習受け入れ先 および学生数 (学部学生15人)

産業技術総合研究所 (4人)
三菱マテリアル株式会社 (1人)
ジャパンエナジー石油開発(株) (2人)
石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (2人)
地球科学総合研究 (2人)
JFEエンジニアリング (1人)
帝国石油 (1人)
シュランベルジェ (2人)

## 編集後記

第42号の会報をお届けします。今回は茂呂先生が退職されるので茂呂先生惜別の特集号です。病気がちだった先生ですが最近健康を回復され無事その職務を全うしました。ご苦労様でした。退職後も元気いっぱい日本・世界を駆け巡ってください。2007年度からは環境資源工学科卒業生の所千晴先生が茂呂先生の後任になります。環境資源工学科は理工3学部のうちでは女性徒数の比が一番多い学科ですので専任教員として女性を迎えることはおおいに歓迎です。63号館の建設は理工創立100周年記念事業として着々と進んでおります。しかしまだ募金の集まりが悪く目標募金額の20%ほどにも達していません。皆様の地道な努力に期待しております。

(森田信男 記)



## 環境資源工学会

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部環境資源工学科内 電話：03-5286-3007

振替番号：00110-9-143534

(非売品)